



## カンボジア便り

### 幼稚園の生徒数が増えません

幼稚園の登録生徒数は41名と前回の報告から4名増加。しかし実際に毎日通ってくる子どもは14、5名で固定してしまい、少し減少気味です。

当会の業務委託先団体ポンロックタマイのマネージャー、リティさんが子どもの増えない原因と対応に付いて、先生方と話し合いをしています。なかなかはっきりしたことが分からず、苦戦しています。

弟妹の面倒をみさせるため、親が子どもを幼稚園に行かせたがらないという話もあり、開発途上国共

通の難しさに私たちも立ち向かわねばならないという状況のようで、その中で何が出来るのかしっかり考えたいと思います。

写真は幼稚園の壁に貼ってある掛け図で「良い子は一生懸命勉強しましょう」と書いてあります。これを使って子どもたちは、数の数え方や色の名前を覚えます。クメール語の翻訳は、当会が事務所を置かせて頂いているアジア文化会館で働いておられ、カンボジアに留学したご経験のある中林さんをお願いしました。



### ～目次～

カンボジアだより	1
幼稚園の近況	
ルセイサン小学校生徒数激減	
善意で繋がる国際交流の輪	2
みんなでつくるビビンの会	
卒業にあたって	3
スタッフ紹介	4
韓国の暮らしあれこれ	5
事務連絡	6

## ルセイサン小学校の生徒数大幅減少・その後

前号でお知らせしたルセイサン小学校生徒数減少の話ですが、その後のリティさんの調査で、学校を止めた子どもたち約100名は、全てが、私たちが6月まで経営していたアジア未来学校の出身者であることが分かりました。

この子たちが止めた理由は、親の経済状況が悪化し、子どもたちも家計の足しに仕事をしなければならなくなったため、これに対し、当会として何か出来ないかをリティさんに検討して貰いました。その結果は、残念ながら何も出来ないことが判明しました。というのは、この子たちは親と一緒にアンロンコン・タマイ村を出て行ってしまったからです。借金から逃れるためのようです。スタッフ一同、改めてカンボジアの厳しい現実を認識した次第です。(大澤)

# 幼稚園の近況



壁の文字は、「良い子は礼儀正しい」です。



「一生懸命聴けば、早くできるようになります」

## 遊具が校庭に固定され、使えるようになりました



## 善意で繋がる国際交流の輪～ボランティアの皆さん、有難う！

文京国際交流フェスティバル 2009

2月21日（土）東京春日の文京シビックセンターで文京国際交流フェスティバル 2009 が開催され、当会は初めて広報ブースを出展させて頂きました。出展にあたりボランティアを募集したところ、15名もの方々にお集まり頂くことが出来ました。ボランティアの皆様には、パンフレットの配布、団体紹介、募金して下さった方への温泉の素の配布等をお手伝い頂きました。その結果、広報パンフレットを 259 枚配布、募金は 11,727 円も頂くことが出来ました。また、当日は文京区職員が取材に来られて、区の地域公益情報サイト「こらびっと文京」（<http://collabit.net/>）に当会を中心とした記事も掲載されました。

今回は韓国人のボランティア参加者や外国人のお客様も来場され、参加したボランティア同士、またボランティアとお客様が楽しく国際交流することが出来ました。国籍が違う者同士が1つの目標に向かって協力し合うことが日韓アジア基金の魅力のひとつだと改めて実感致しました。今後もこうしたイベントに積極的に参加して、国際交流の輪を広げていければと思います。（大西）

### みんなで作るビビンの会

4月19日 第8回報告

ビビンの会で使うアジア文化会館101教室—いったいどれだけの人が入るでしょう。長机を二つくっつけ、そこに椅子を8つ置いた「島」が8つ。それで結構いっぱいになる教室です。今回ビビンの会は、始まって以来最多の人数、総計65名ものお客様が集まりました。スタッフを含めると77名にも上ります。椅子は足してもまだ足りず、各「島」をまとめるグループリーダーが一時立った状態のままグループを仕切っている様子も見られました。懇親会（ビビンの会後におこなわれる食事会）についても、40名前後の参加を見込んだにも関わらず60名ものお客様がいらして下さり、食事や飲み物はあっという間になくなりました。料理やビールは追加で購入するほどです。スタッフ一同、部屋の中を取り仕切るのに必死でした。

しかしそうした状況の中、いつも私達スタッフに聞こえてくるのはお客様の笑い声でした。日本語を学びたての日本語学校の方々が多く、配慮が行き届いているか心配していたのですが、どうやらありがたいことに日本語が出来る韓国人のお客様や、韓国語を話せる日本人のお客様がフォローして下さっていたようです。どこも盛り上がりお話をしていたので、次のプログラムに進むため、話をやめるようお願いするのが心苦しいくらいでした。

ビビンの会は「日韓・アジアの友達を作ろう」というコンセプトで運営されています。この目的を達成するには、友だちになれるような和やかな雰囲気が必要不可欠です。笑顔あふれる和気藹々としたムードにして下さるのは、紛れもないお客様！ビビンの会は、スタッフだけでなくいらして下さるお客様と共に作っているのだと、再認識させられた第8回ビビンの会、さまざまなアイデアを取り入れてもっと魅力あふれるものにしていきたいと思っています。（浅野）

## 卒業にあたって

—今年も二人のスタッフが大学を卒業し、新たな門出をしました。二人とも数年にわたって日韓アジア基金と関わり、大いに貢献してくれました。ここで培った心とノウハウで、社会でも活躍してくれることでしょう。—

## 理解しがたいことを理解しようとする

松田 えり子

この春、無事、大学を卒業しました。長いようで短い学生生活の中には、いろいろな人々との出会いがありました。日韓アジア基金との出会いもその一つです。中学時代に当会代表の禹さんに出会い、カンボジアスタディーツアーに参加しました。現地でアジア未来学校に通う子どもたちと交流し、カンボジアの様子を知ることができたのはとても貴重な体験でした。未来学校で学ぶ子どもたちのはじけるような笑顔と、やんちゃな姿は今もよく覚えています。真面目に勉強し家計のために働く彼らを見て、当時の私は自分を省みていました。



大学時代に再び関わった日韓アジア基金は、様々なイベントに参加して広報活動を行ったり、カンボジアに幼稚園を建てたりと、とても精力的に活動を行っています。なかでも韓国人と交流を深めようという目的で始まったビビンの会は、韓国のみならずアジアやアメリカまで幅広い方々が集まるイベントになりました。この会がこうしてパワーアップしながら続けているのがとても嬉しいです。つくづく「友だちに国境はない」のだと感じさせられます。今まで日本のことや自分のことしか知らなかった私ですが、当会や学生生活を通してこれまで知らなかったことを知ることや、理解しがたいことを理解しようとすることの大切さを学びました。相手を思いやること、未知の出来事に関心を寄せ考えてみることは自分の世界を広くし、そしてより豊かにしてくれるのだと思います。

4月からは大学の専攻を活かして社会福祉の現場で働いています。子どもからお年寄りまで地域に暮らすさまざまな人と接しています。あせらずに一步步地道にやっていきたいです。今後とも微力ではありますが、みなさんと協力しながら活動を続けていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

## I LOVE ASIA FUND 経験

渡部友里恵

今春、無事に大学を卒業しました。振り返ってみれば、日韓アジア基金を知ってから、実に6年以上の月日が流れました。2002年の日韓ワールドカップで韓国に興味を持ったことが、私が当会を知るきっかけであり、その後、自分が住むアジアに目を向けるきっかけでもありました。



当会で過ごした時間を一言で語ることは非常に難しいですが、印象深い経験と言えば、カンボジアの支援先「アジア未来学校」へ行ったことです。学校運営のための募金活動や広報活動を行う中で、本来の目的地へ足を運ぶことは、自分たちが行う全ての活動の原点を見るためであり、また活動に意味があることを証明するためでもありました。もちろん私たちがすることは、アンロンコン・タマイ村の子どもや周辺のネットワークに住む人々に、外からの支援を期待させることではありません。彼ら自身が身の回りのことに問題意識を持ったり、彼らの未来の可能性を少しでも広げたりするための手助けである、という気持ちは

は今も変わらず胸にあります。

そこからまた日本での活動に視点を置き換えることで、活動に意味を見いだしていくことが出来ました。日々のミーティングやイベントといった活動は、ボランティアといえども責任の伴う仕事でしたので、私は当会で責任を全うすることの大切さを多く学ばせて頂きました。この経験は社会人となった今、大きな糧になっていると思っております。

最後になりましたが、当会をご支援下さっている皆様に心からお礼を申し上げます。これから私は、社会人スタッフとして引き続き当会のお手伝いをしていきます。今後とも宜しく願いいたします。

## スタッフ紹介

一人旅が好きで、独身時代はいろんな国を旅しました。なかでもカンボジアへ行った時のことは特に印象に残っております。バンコクからバスで国境近くまで行き、カンボジア側のポイペットでおんぼろバスに乗り換え、でこぼこ道に行くこと4時間。ようやく辿り着いたアンコールワットはとても美しく、非常に感銘を受けたことを覚えております。それとは対照的に、遺跡の中には物乞いをする子どもたちがたくさんおり、彼らは懸命に生きておりました。その時、私は「カンボジアの子供たちに必要なものは教育だ」と思いました。

現在、日韓アジア基金でカンボジアの教育支援のお手伝いをする機会に恵まれ、普段の仕事とは全く違うこと（人前で話したり、原稿を書いたりすること）が多く、苦勞しつつも楽しみながら参加させて頂いております。そうした経験を通じて、子供たちだけではなく私も日々成長させて頂いていると実感致します。これからもカンボジアの子供たちとともに、私も成長していければと思っております。

## 会社員 大西直美



## 韓国の暮らしあれこれ ⑧

久しぶりにいただいたこのページ、今回は旅行案内です。ソウル・釜山（プサン）・慶州（キョンジュ）にはパック旅行で行った、今度は個人旅行をしたいという方に、慶尚北道の安東（アンドン）をお勧めします。ソウルからムグンファ号（列車）か高速バスで数時間なので1泊2日の日程。自然が美しく見る場所も豊富です。

安東といえば、まず両班（ヤンバン）村です。両班とは、朝鮮時代（15-19世紀）の支配階級で文官・武官になれる家柄を言います。地元の農村では大地主で、本家を中心に一族が固まって住んで同族村をなしていました。ここにはその村が多く残り、農村風景の中に重厚な本家の屋敷がそのままの姿で保存されています。博物館としてではなく、いまでも住み続けている所が魅力で、公開されているところもあります。両班に生まれても科挙に合格してはじめて官職に就けるので、みな学問に励みました。安東出身で都で出世した人もありますが、それ以外の人は、出世よりもむしろ学問に秀でることで自らの誇りを守ろうとしたところから、世俗的な富よりは学問と品位を重んじる風格のある両班文化が生まれました。

尊敬された学者の弟子たちは、その位牌を祀り学問する場所として、「書院」を維持し守ってきました。性理学（朱子学）の大家でいまでも学問の師と仰がれ、1000ウォン紙幣でもおなじみの李退溪（イテグ）の陶山書院、その弟子、柳成龍（ユソンヨン）の屏山書院は、欠かせない見学場所です。自然と調和した「書院文化」ともいべき建築を見学しつつ、学問が朝鮮社会で持っていた重みを思いましましょう。どちらも日本語ができる案内人がいて無料で説明してくれるのが嬉しいです。

仏教は朝鮮時代には儒教に押されて迫害されたのですが、ここには韓国最古の木造建築とされる高麗時代（10-14世紀）の鳳停寺（ポンジョンサ）極楽殿があって、そのがっしりした骨組みを見ることができます。韓国ではほとんどの塔が石塔ですが、この地方には石の代わりにレンガを積んでつくった独特の磚塔（せんとう）が発達し、あちこちで見かけられます。また道路際にぬっとそびえているチェビウォン石仏は、自然石を利用してつくったもので、いつもだれかが礼拝に訪れています。後ろの木々が紅葉する時期はとてもいいです。



泊りは河回（ハフエ）村の民宿にしましょう。洛東江（ナクドンガン）がΩ（オメガ）型に蛇行する中に抱かれたこの村は、民俗村に指定され、現代建築はありませんし、電線も地中に埋められて昔のまま。瓦屋根の両班屋敷や草葺屋根の農家が大根畑白菜畑の間に点々と見えます。古びた屋敷のひとつに泊れば、ひと部屋3,000~4,000円で、屋敷の構造もわかり、片言の日本語を話すおばあさんとの会話も楽しめるでしょう。楽しみは翌朝、まだ霧がかかっているころの散歩です。草葺屋根にカササギが遊び、家々を囲む低い土塀に挟まれた道を行くと、村の守護樹が大きく枝を伸ばしています。

食べ物の話も忘れてはなりませんね。チェサ（先祖を祭る祭祀）のご馳走をアレンジしたホッチェサパブが名物で、必ず塩サバがつきます。海のない安東で塩サバとは、山梨のアワビ、京都のニシンのようなものでしょうか。蒸し鶏とアンパンも名物だとビビンの会で韓国の学生に教えてもらいました。安東焼酎も有名です。

タクシーを頼んでもまる一日で15,000円ぐらいです。

（波多野）

当会イベントにボランティア・スタッフとして参加下さった方(敬称略)

ご協力ありがとうございました。次回も宜しくお願いします。

1月28日 年賀状宛名書き

佐藤由美・池田百合子・後藤麻理子・横山洋平・杉本香里・平山恵利奈  
高木雪絵・篠田由希・森昌平

2月1日 ニュースレター28号発送作業

池田百合子・篠田由希・千葉真由美・松尾あさみ・後藤佳澄・明石将・辻村亜由子  
張博・油田奈緒子・イジェホ

2月21日 文京国際交流フェスティバル

石渡英里・小幡真理子・神出唯美・川端佑季・キム サンユン・桜庭周太・塩原裕理  
信夫万里・鈴木崇規・戸川真由美・平山恵利奈・前田小百合・本宮慎吾・山田小百合  
キム チナン

4月18日 第8回ビビンの会

池羽太一・宮澤篤志・横田麻未

09年1月16日～3月30日に会費・ご寄付を下された方

敬称略・欄外を除き五十音順

阿南 糸代	大坪 玲子	佐藤 和之	平塚 千尋	松井ふみ子	吉野 早苗
井上 卓也	小川 英	高木 修	藤井 陽子	宮本 直実	四方田千尋
岩見 豊子	奥村 宗之	高木 桂子	古川かおる	谷池 教子	
遠藤 保弘	加藤 郁雄	田中 節子	星 光雄	柳田 文子	
大塚 紀子	小林栄次郎	長谷川容一郎	堀川 泰義	山根 寛	

ボランティア 野菊の会	神保 国男・朋子	Cheng Tae-Sang
-------------	----------	----------------

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)  
賛助会員:年会費 1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)  
法人会員:年会費 1口10万円  
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

E-メール: [jkaf@ml.infoseek.co.jp](mailto:jkaf@ml.infoseek.co.jp) HP: [iloveasiafund.com/japan/](http://iloveasiafund.com/japan/)

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也